

百人一首大会 1、2年生



令和6年 12月7日(土) 美術教室で

1回目対戦

合学年で8つの組を作り、それぞれの組で個人戦を繰り返します。取り札が机の上に広げられました。お手付きした人は一回休みのルールです。

上の句が詠まれてすぐに手が動く人はそう多くないですが、下の句が詠まれると会場は騒然となります。ほとんどのグループが取り終わっても、発見できない組もあり、読み

手は、濁点を除いてもう一度詠み上げる場面もありました。ただ、一首だけ、上の句で全員の手が動き出す歌があります。そう、「ちはやぶる神世も聞かず竜田川から紅に水くくるとは」です。マンガや映画の影響は大です。



タッチの差



2回目対戦

取った札の枚数で順位をつけ、1位の人のグループ、2位の人のグループというように、力の近い人同士で戦います。1位グループで優勝すると全体優勝になります。

競技が始まりました。「難波津(なにわづ)に咲くや木の花…」試合開始の合図の序歌が詠まれた後、読み手が上の句を詠み始めます。

葦浦先生の声は大きくはないのですが、レーザービームのように会場の隅々に届きます。

今回、実力が近いグループ構成なので、全体的に非常に

盛り上がりました。

その結果、カルタ・クインに、2年生の□□さんが選ばれました。□□さんはバレーボール競技のリベロなので、拾うのが得意なのでしょうか。実は、小学生のとき、百首全部を覚えたのだそうです。□□さん談「カルタ部になり、兼部します。」

大喜びの加勢イッ



坊主めくり

余った時間で、坊主めくりを楽しみました。読み札だけを机上中央に重ねて置きます。

男性歌人を引いたら自分のものに、僧侶(坊主)を引いたら持ち札を場に出します。そ



坊主めくり

の次に女性歌人を引いた人が場にあるカードを取ってしまいます。そして、最後に一番たくさんカードを持っていた人が優勝です。

おもしろいルールがあります。僧侶の中でも、特に蟬丸を引いたら、全員が持ち札を場に出さねばなりません。その後、女性歌人を引いた人が総取りをします。

百人一首大会と坊主めくりで、1,2年の学年は本当によく盛り上がりました。このまとまりの良さで三年生を送る会や奥多摩自然探究を成功させてくれることでしょう。



□□は生徒名

参加者の感想

〇1年 最初の組が本当にバラバラであまり話したことがない人だったから心配だったけど、話しかけてくれたり

接しやすくしてくれ、すごく楽しめた。好きな句を覚えたり、相手とのスピード勝負したりするのがすごく楽しかった。来年はもっと上の句と下の句をセットで覚えて勝てるようにしたい。

〇2年 みんな意外と上の句、下の句を覚えている人が多く、詠み始めたらすぐに取りることができる人が多くびっくりしました。私はあまりたくさん取れなかったけど、とても楽しい日にすること

ができました。百人一首の楽しさだったり魅力を感じることができたので、また機会があればみんなでもやってみたくて思いました。

